

棚田通信

NO6 2008.6

恵那市坂折棚田保存会

なごみの里だより

坂折棚田と先史文化恵那研究会(その2)

平成8年(1996)～平成12年(2000)

棚田保全と棚田整備

平成8年(1996)11月30日、中野方公民館で中島先生(現棚田学会会長、早稲田大学名誉教授、棚田博士として有名)から、坂折棚田を廻って調査されたことを中心に講演会が開催されました。先生は坂折棚田について特に①坂折石積棚田には段高が3m近くの田もあること、②清水口(水抜き、暗渠などとも呼ばれる石積横穴)が数多く確認できる事(後の調査で49箇所)の2点を強調され、これらの工夫、努力はすばらしい。さらに石垣の草むしり、水廻りへの目配りなどを通して維持してこられた皆様には頭が下がる。と語りかけるように話されました。

講演、終了後の質疑の中で、会場から「先生のお話は良くわかりました。棚田を維持していきたいが、私はもっと機械を使って効率の良い農業をしたいので、今話が進み

つつある圃場整備事業に参加して進めて行きたいと思えます。」と話が出ました。この話をきっかけに、棚田耕作の様々な事柄が話され、私はこの話し合いから、棚田保全の足並みには、もう一つ大きな山があることを痛感しました。



恵那棚田ネットワークと棚田学会参加

今まで恵那先史文化研究会は、縄文以来の恵那における石の文化を中心に坂折棚田を学習してきましたが、これを一步深入りして重点を「坂折棚田の保全」において学習と活動をしななければならないと考えました。そこで研究会組織の中ではありますが、平成10年(1998)「恵那棚田ネットワーク」を立ち上げて「まちづくり協議会」に属する団体として、年2回の発表の場で、「坂折棚田の保全が恵那のイメージを高めることになる」ことを訴えると共に、棚田百選(1999年農林省認定)のこと、恵那で棚田

サミット開催の実現化のことなどを他のまちづくり団体に伝えてきました。また学習としては、平成10年(1998)に発足した棚田学会にも、個人加入の形で参加し、以来毎年夏に東京三越で開催される総会とシンポジウムに出席し、棚田に関する新しい動き、考え方、さらに政策について勉強を進めました。(…つづく)

(註; 棚田学会は農学、経済、歴史、地理、土木、環境など各分野の研究者、中央省庁の役人・研究所員、一般市民も参加して日本、世界の棚田を研究する)

恵那市先史文化研究会長(恵那市坂折棚田保存会顧問) 小坂 清治

めずらしい桧皮葺き小屋「お茶番処」が完成しました。

中野方町坂折集落の中央を通る古道「黒瀬街道」は江戸時代から明治の中期頃までこの地方の主要道路で、中津川市苗木並松を基点にして同市高山⇒蛭川⇒たがみ峠を越えて中野方に入り、北側山手を抜け、坂折の出店から北上して中峠から福地⇒久田見⇒八百津町黒瀬港までの街道です。



その道中にある坂折集落の下権現神社にある弘法堂では、坂折の人達が交代で旅をする人にお茶のもてなしをしていました。このことを「お茶番」と称し現在もその風習を伝えています。

それに由来し、坂折棚田へ訪れる人達にお茶を出し交流を深めることを狙いとして、この建物を「お茶番処」と名づけました。

毎日、午前10時から午後3時まで当番制でお茶を出しています。皆様も是非お立ち寄りいただき、情報を交換し、棚田の保全を支援してください。なおこの小屋は保存会会員の手づくりで中野方町まちづくり基金を活用して建てております。

布マルチの米づくり

当保存会棚田ブランド開発部会が中心となり、無農薬有機栽培の稲づくりに取り組んでいます。布マルチとは、綿製品加工で出せない綿を利用して、綿の間に種籾を入れ、水田に敷設する栽培方法です。

稲づくりで最も困難なことは、雑草の発生を防ぐ方法です。現在は、除草剤を使って稲づくりが行われていますが、より安全な米が欲しいというニーズを受け、布マルチを使って雑草を防ぐことを計画しています。昨年は坂折棚田の近くで実施し成果を得ました。



今年5区の鈴木浩義さんの田で布マルチ栽培を行っています。将来的には無農薬栽培を棚田ブランドにするのが狙いです。秋の収穫が楽しみです。

第 3 回 棚田オーナー田植え交流会を開催

快晴に恵まれた 6 月 1 日（日）前日の雨が上がり、朝霧の中から棚田が見えてくるといすばらしい景観で、早朝からこの一瞬を捉えようと、大勢の写真家が訪れていました。

午前 8 時頃にはオーナーの皆様を大歓迎するように、すっかり晴れまぶしい太陽が照りつけ、いよいよ田植えの開始です。会長の歓迎の第一声は「すばらしい日となりました。これは笠置山、権現山に囲まれた坂折棚田の自然が皆様を歓迎したのです。」でした。



今年のオーナーは 31 組、102 人。当日は 28 組 103 名で、若い世代の方々や家族での参加が目立ちました、グループの中には外国の方の参加もあり、会員等の指導を受けながら、思い思いに田植えを楽しんでいました。

各自持参の弁当で、青空の中、木陰で棚田の景色を眺めながら楽しい食事でした。

午後 2 時頃に解散し無事終了できました。帰りには、自宅で稲を育てるために余った苗をもらって帰る方も見えました。

ボランティアの皆さんご苦労さまでした。次回は田の草取りを 7 月 6 日に行う予定です。ご協力よろしくお祈いします。



ビオトープ観察会

8月2日、坂折棚田ビオトープで、主に小学生を対象に観察会を開催します。詳細は7月に入ったときにお知らせします。「ヤマアカカエル」の生態を中心に田んぼの生物や植物について勉強します。夏休みの自由研究にいかがでしょうか。

第2回『坂折棚田』フォトコンテスト募集

「坂折棚田の美しい四季」をテーマとして、その素晴らしい景観を後世に残したいと、棚田での営みや都市住民との交流、あるいは農業者の笑顔など、棚田での感動の瞬間を撮影した写真を募集します。プロ・アマを問わずどなたでも応募できますので、奮ってご応募ください。

・募集期間 平成20年9月30日
(当日消印有効)

・主催者 恵那市坂折棚田保存会
・協賛 中野方町まちづくり委員会
・テーマ 坂折棚田の美しい四季

・応募作品 平成19年10月1日～
平成20年9月30日までに撮影され、未発表のものに限る。

・応募サイズ 4ツ切り(ワイド4ツ切含む)(254mm×305mm)に限定。

・各賞・賞品 最優秀賞 1点、
優秀賞 3点、佳作 3点、中日新聞社賞 1点(各賞に棚田米、純米酒くろくわ等)

※ ネガカラー・ポジカラー・デジタルカメラなどは問いませんが、デジタル作品の場合、加工作品は応募できません。また、入賞作品の著作権は主催者に帰属し、保存会の活動として無償で使用させていただきます。

【ご応募・お問い合わせ先】

〒509-7292 岐阜県恵那市長島町正家1丁目1-1

恵那市役所経済部農業振興課 農村交流係 Tel.0573-26-2111 (544・545)

〒509-8231 岐阜県恵那市中野方町1802-1

恵那市坂折棚田保存会事務局(中野方コミュニティセンター内) Tel.0573-23-2111



第1回 最優秀賞に選ばれた「花咲く里」

あとがき

今年のオーナーによる田植えは快晴中、多くの人でにぎわいました。記事にもあるように、若い方の参加が目立ち、こんな方々が中野方を心の故郷に感じてくれたらと思いました。

また、環境保護とか景観保護など頭で考えるより、まずは田んぼに足をつけて、その中で地域の方と交流しながら考えるものではないでしょうか。今、棚田の夜はカエルの鳴き声とホタルの飛び交う音と光の競演です。 恵那市坂折棚田保存会 事務局(中野方振興事務所内) 23-2111